

“札幌らしさ”とは

時計台でマチづくり語る

札幌のシンボルである中央区の時計台を会場に十日夜、くつろいだ雰囲気の中でマチづくりを語り合うイベントが開かれた。

約七十人が出席し、かつての個性豊かな街並みをスライドで振り返りながら、札幌らしさについて考えた。

市民グループ「まちばる」(川口剛代表)の主催。スライド上映のあと、大正時代から続く時計台前の老舗「マリヤ手芸店」の松村耕一社長と、食農わくわくねっとわしく北海道(札幌)の長尾道子事務局長が、札幌でのライフスタイルについて対談した。

札幌の中心部がビル街に変わったのは一九七二

年の札幌五輪前後。松村さんは「夜遅くまで集える喫茶兼酒場が消え、生活感も失われた。駅前通りの再開発を機に、れん

が造りの建物を増やせないだろうか」と語った。一方、長尾さんは、普段の食卓に地場産品を使う「地産地消」の大切さを説き、札幌はそうした北海道の良さに触れられるマチになってほしい、と訴えた。(佐藤元治)



時計台2階のホールを会場にマチづくりを語ったイベント